

「北海道パレスチナ医療奉仕団」
75年目の「ナクバ（大災厄）の日」2023 北海道
2023年6月11日（日）

「愛国の告白 - 沈黙を破る・PART II」
イスラエル「占領軍」元将兵たちの証言による
“パレスチナの占領”の本質
講師 土井敏邦
(ジャーナリスト・映画監督)

日時：6月11日（日）開場14:30 開演15:00 終了17:30

会場：札幌市民交流プラザ2階 SCARTS、ZOOM 併用
札幌市中央区北1条西1丁目（札幌文化芸術劇場 hitaru が入っているビル）

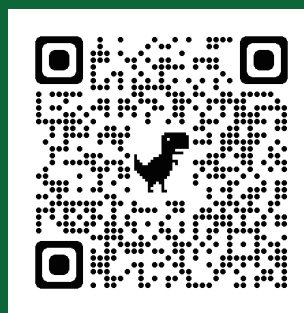
資料代：500円 学生・ZOOM参加・無料

zoom 参加ご希望の方は 14:45 分から下記 URL

又は左記 QR コードから入場ください。

<https://us02web.zoom.us/j/87529388526?pwd=SW5NY3pZcUxtcEtRakdJK25zcG5Jdz09>

ミーティング ID: 875 2938 8526 パスコード : 899819



1947年5月、イスラエルによる侵略的「建国」により70万人のパレスチナ難民が発生させられました。これを彼らは「ナクバ（大災厄）」と呼び、その後の苦難の始まりとなりました。

私たちは、それを「ナクバの日」として記憶にとどめ パレスチナ～イスラエル問題の解決のために、毎年講演と皆さまとの意見交換を行っていました。今年の「ナクバの日」は、パレスチナとイスラエルに長くかかわってきたジャーナリストで映画監督の土井敏邦さんを招き、「沈黙を破る Part II」の上映と講演を準備いたしました。皆様のご出席を心から願っています。

土井敏邦氏談：

パレスチナを語る時、パレスチナ側からの視点だけではその実態は見えない。不可欠なのはイスラエル側の視点だ。問題の根源である“占領”はパレスチナ人だけの苦難ではなく、イスラエル社会の“モラル”を崩壊させてしまうからだ。その現実に危機感を抱いた元イスラエル将兵たちが立ち上がった NGO「沈黙を破る」である。パレスチナの“占領”とは何か——「占領軍」だった元将兵たちの生々しい証言によって、“パレスチナの占領”の本質を解き明かしていく。



土井敏邦さん
(ジャーナリスト 映画監督)

1985年以來、パレスチナ問題、湾岸戦争、イラク戦争、在韓被爆者、福島など広く取材活動が続けている。

著書『米軍はイラクで何をしたのか—ファルージャと刑務所での証言から』
『沈黙を破る—元イスラエル軍将兵が語る“占領”』（ともに岩波書店）など多数
映像作品『沈黙を破る』『ガザに生きる』『福島は語る』など多数



主催 「北海道パレスチナ医療奉仕団」

065-0019 札幌市東区19条東22丁目5-13

TEL : 011-780-2730 090-274-3163 (猫塚義夫団長)

Mail : hokkaido.palestine@gmail.com

HP : <https://hms4p.com/>

共催 「医療9条の会・北海道」

「たかさき・渡部法律事務所・9条の会」